

KIMOTO REPORT

株主通信 第2四半期

第57期 2016年4月1日▶2016年9月30日

contents

- 株主の皆様へ
- トピックス
- 特集 データキッチン事業
- 決算ハイライト
- 会社概要
- 役員一覧
- 株式の状況
- 株主メモ
- 1株当たり配当

株式会社きもと

証券コード: 7908

株主の皆様へ

株主の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
2017年3月期第2四半期連結累計期間(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の決算をご報告申し上げます。

当社グループはこれまで、当社を取り巻く環境に柔軟に対応してまいりました。ますます変化する環境において安定的、継続的な100年継続企業へ成長していくために、フラットパネルディスプレイを中心とした事業から、IoT関連企業へのビジネス進化を目指し、2017年3月期より第四次中期経営計画を3ヶ年(2017年3月期～2019年3月期)で推進してまいります。

第四次中期経営計画では、フィルム事業、データキッチン事業、コンサルティング事業の3つに事業を再編し、高付加価値と収益性の向上を目指します。フィルム事業はIoT技術に使用される各部材の開発、生産及び販売、データキッチン事業はIoTで使用されるデジタルコンテンツの提供、コンサルティング事業は製造業向けコミュニケーションツールの開発を展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、フラットパネルディスプレイ製品は前年同四半期の売上を下回ったものの、売上総利益率が向上し、増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は7,783百万円(前年同四半期比6.5%減)、営業利益は220百万円(前年同四半期の営業損失は82百万円)、経常利益は63百万円(前年同四半期の経常損失は45百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は29百万円(前年同四半期の親会社株主に帰属する四半期純損失は155百万円)となりました。

期首にご報告いたしましたように、今期は収支トントンを目指しておりますが、上半期はほぼ計画通りに通過いたしましたことをご報告申し上げます。

過去2期にわたり営業損失となっておりました営業成績ですが、ようやく回復してまいりました。

今期、第1四半期と第2四半期の営業成績を勝敗で表現しますと2勝0敗となり、これは私たちにとって大きな自信となりました。

まだまだ安心することは出来ませんが、平常運転を目指す来期に向け、一歩ずつ前進いたしております。

また、IoT関連製品の開発に加速度を持たせるために、2017年5月の稼働に向け、米国を発信地とし、スーパークリーン・コンパクトコーティングマシンの導入を進めております。

人材も育成過程から大いなる伸びしろを持った成長過程に入り始めたところです。

きもとファンの皆様には、KIMOTOの成長を見守って応援頂けることを従業員一同感謝申し上げます。



代表取締役社長
木本和伸

第2回 KIMOTO diG開催

2016年10月20日、当社の新宿メインオフィスにて昨年に引き続き2回目となる「diG」を開催しました。diGは「継続と和」をテーマとし、会を通じてKIMOTOのお客様同士のつながりを深め、共に発展していくことを目的としています。今回は30社55名にご参加頂き、(株)ニシカワ様、(株)金羊社様、北海道地図(株)様、(株)アイワット様の4社にご講演頂きました。また特別講演として、2年前よりKIMOTOのワークスタイル改革についてご研究されている中央大学教授露木恵美子氏に「中央大学MBAが見たKIMOTO」と題してご講演頂きました。

その後の懇親会では、和気あいあいとした雰囲気の中で、お客様同士やご講演者様とお客様との交流が行われました。ご多忙の中にもかかわらずdiGにご参加頂いた皆様、誠にありがとうございました。



diG発表の模様

コミュニケーション活性化サービス 「CODE」を開始

CODE（コード）とは、KIMOTOと印刷会社である(株)金羊社様（以下敬称略）との連携で行う、会社・工場内でのヒューマンコミュニケーションの活性化を目的としたサービスです。金羊社はKIMOTOの提案するコミュニケーションデザインの考え方に賛同され、自社での取り組み以降、印刷事故件数が1/3に減少しました。この体験を経てコミュニケーションの活性化は経営品質の向上に繋がると実感され、多くの印刷会社様にその必要性を知って頂きたいという思いがKIMOTOとの協業に結びつきました。

6月には金羊社本社にて両社の事例を交えたセミナーを開催。今後も不定期でセミナーの開催を予定しております。



(株)金羊社様でのセミナーの模様

国際次世代 農業EXPO出展

2016年10月12～14日に幕張メッセで開催された国際次世代農業EXPOにて、NTTグループ様（以下敬称略）のブースへ出展させて頂きました。NTTグループは農業に関わる企業との協業による農業用ICTソリューションを提供しています。その中で(株)NTT PCコミュニケーションズは鳥獣害対策用センサシステムを開発。わなが作動すると監視装置の通信端末が起動し、指定した宛先にメールが届く仕組みです。「きもとファーム」では稲作を行っていますが、猪や猿、鹿などの獣害に悩まされており、対策として捕獲用のわなを設置しましたが、休日の見回りが負担となっていました。そこで本システムを採用し負担軽減に役立てています。また同社のご協力を頂き、わなの周りを監視カメラで撮影し、獣の動態を観察しています。ブースではきもとファームの取り組みを動画で上映し、衛星データを用いた圃場のタンパク含有量の測定や、お米の食味値測定結果等について紹介しました。



出展模様

特集 データキッチン事業

中期経営計画の柱となる3事業の1つであるデータキッチン事業をご紹介します。

フィルム

機能性フィルム開発・製造事業

コンサルティング

働き方・仕組み創り支援事業

データキッチン

ビッグデータ編集・加工事業

データキッチンとは

きもとは長年にわたり、様々な画像処理技術を用いて、多様な分野でお客様のニーズにお応えしてまいりました。近年では、ますます高密度、高精度な加工技術が求められています。データキッチン事業では様々なデジタルデータをお客様の要望にお応えして、お好み通りに調理いたします。

クラウド環境での作業を開始

データキッチン事業では、本年度よりクラウド環境での空間情報処理作業を開始しています。保管していた大量のデータをクラウド上に移行したほか、AutoCAD など専門性の高いソフトウェアをクラウド上で使用することが可能になりました。国内外の事業所でのデータ共有が可能になった結果、繁忙期に合わせたフレキシブルな人員配置が可能になりました。

DataKitchen Menu

画像処理

空中写真合成・色調整

空中写真は、国土利用、都市計画や防災等に利用されています。撮影した空中写真ネガフィルムからの数値化（スキャニング）、GIS等で使用できるデジタルデータの作成を行っています。また、デジタル化した空中写真画像データより、用途に合わせて写真を印刷紙に焼付けて提供しています。

DTP (切り抜き・写真データ処理)

雑誌、カタログ、チラシなどの紙媒体、Web媒体用の画像の切り抜きやリサイズ、合成、色調整、また文字入力などニーズに応じて対応しています。

地図

地図入力・編集

地番図や地図などのアナログの紙地図から用途に合わせてデジタル加工編集しています。属性データのデータベース構築及び図形データの作成を行い、このデータベースと図形を複雑に組み合わせることにより、お客様のニーズに合わせたデータを作成します。また、固定資産、設備管理、農業、公有財産等の様々な空間情報を有する地図データの解析・加工編集、アナログからデジタルへデータベース構築、デジタルからデジタルへの様々なデータフォーマット間の変換・編集等を行っています。

>> GEINS (ゲインズ) シリーズ

GEINS (ゲインズ) は、導入・運用実績15年以上を誇る地籍関連ソフトの定番です。全国の自治体様にご利用頂いている地籍業務支援ソフトウェアです。

3D

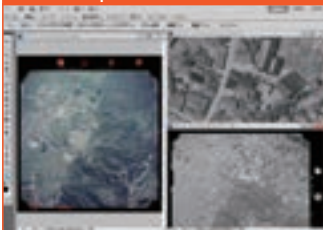
3D点群データ処理

レーザー測量機器の普及が進んだことで、今までより身近に3次元計測が可能となり、高密度、広範囲、長距離など用途に応じて様々な計測が行われるようになりました。航空レーザー測量の成果物である点群データには建物や樹木等の地表面以外のノイズも撮影されます。これらのノイズを除去（フィルタリング）し、地表面の3次元モデリングデータを提供します。

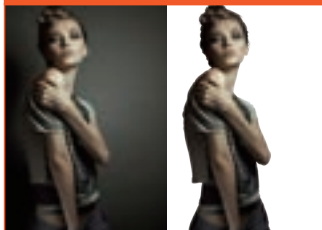
>> geoverse (ジオバース)

レーザー測量のデータは膨大なものになります。geoverse (ジオバース) は独自のデータフォーマットUDSデータ (Unlimited Detail technology) を使用し、膨大なデータをストレスなく表示することができるソフトウェアです。

Photoshopでの航空写真色調整作業



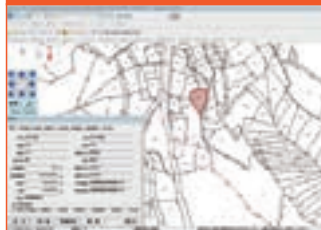
DTP切り抜き作業



GEINSでの地番図入力



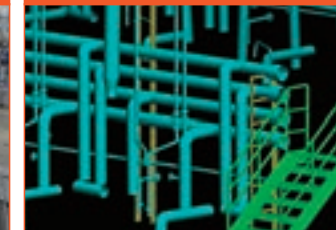
GEINSでの地図編集作業



レーザー計測した点群データ



点群データの3Dモデリング画像



決算ハイライト

(単位:百万円)

	2015年3月期 第55期		2016年3月期 第56期		2017年3月期 第57期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(予想)
売上高	8,647	17,391	8,320	15,597	7,783	16,200
営業利益	△96	△150	△82	△508	220	0
経常利益	44	228	△45	△522	63	0

(単位:百万円)

	2015年3月期 第55期		2016年3月期 第56期		2017年3月期 第57期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期(予想)
親会社株主に帰属する当期純利益	0	50	△155	△1,640	29	0
総資産	27,810	27,732	27,454	25,345	25,152	
純資産	21,568	21,824	21,426	19,240	18,830	

会社概要

2016年9月30日現在

名称 株式会社 きもと
所在地 〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷四丁目6番35号
設立 1961年2月9日
事業内容 ・電子・電気機器用、プリント回路用、光学機器用、情報記録用、環境測定用等各種フィルムの製造及び販売
・コンピュータ出力用、設計用、印刷用、サイン・グラフィックス用等各種フィルム並びに用紙の製造及び販売
・航空写真及び諸種図面の撮影並びに複製に関する事業
・測量、デジタル写真測量、地図編集、地図印刷
・コンピュータ情報処理サービス並びにソフトウェアの開発及び販売
・農産物の生産、加工及び販売
・酒類の販売
・コンサルティング業務
従業員数 550名(単体)
取引銀行 (株)三菱東京UFJ銀行
(株)みずほ銀行
(株)りそな銀行 他
営業拠点 [国内]札幌、仙台、筑波、新宿、名古屋、大阪、福岡
[海外]台北(台湾)、サンフランシスコ(米国)、蘇州(中国)、深圳(中国)
工場 三重県(いなべ市)
茨城県(古河市)
研究所 埼玉県(さいたま市)
海外関連会社 KIMOTO TECH,INC.(米国)、KIMOTO AG(スイス)、
瀋陽木本実業有限公司(中国)、木本新技術(上海)有限公司(中国)

(注)当社は、2014年11月18日開催の取締役会において、経営資源の集約及び経営の効率化を図るため、連結子会社である瀋陽木本実業有限公司(中国)及び木本新技術(上海)有限公司(中国)について、前者を存続会社として合併することを決議しております。

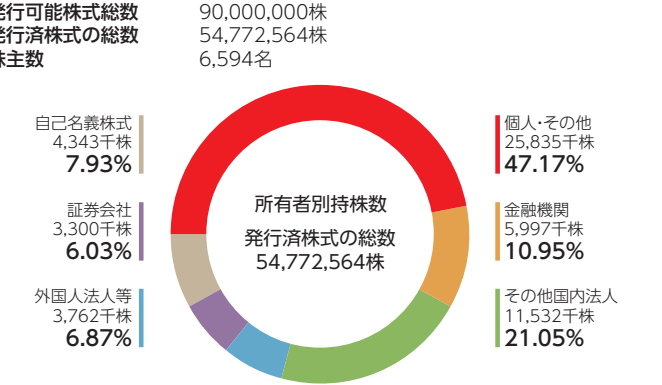
役員一覧

2016年9月30日現在

代表取締役社長	木本 和伸	常勤監査役	湊 加津美
常務取締役	笹岡 芳典	監査役	篠原 信
常務取締役	下里 桂司	監査役	帖地 マリ子
取締役	鈴木 亮介		
取締役	岡本 孝志		
取締役	宮田 久美子		

株式の状況

2016年9月30日現在



大株主

株主名称	持株数[千株]	持株比率[%]
きもと共栄会	5,863	11.63
株式会社 精和	3,602	7.14
立花証券 株式会社	2,580	5.12
きもと従業員持株会	2,425	4.81
木本和伸	2,391	4.74
東レ 株式会社	2,104	4.17
株式会社 三菱東京UFJ銀行	1,640	3.25
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	1,571	3.12
東京中小企業投資育成 株式会社	1,484	2.94
泉 株式会社	916	1.82

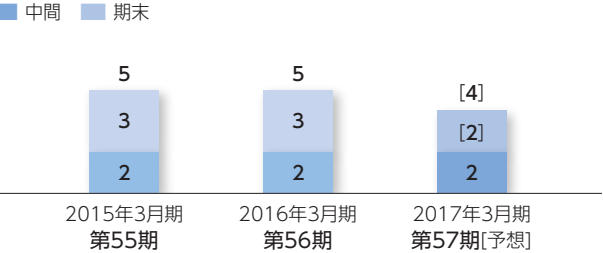
(注) 1. 当社は自己株式を4,343千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
3. 信託銀行等の信託業務に係る株式数については、当社として網羅的に把握することができないため、株主名簿上の名義での保有株式数を記載しております。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 3月31日
- 剰余金の配当の基準日 毎年3月31日及び毎年9月30日
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 特別口座の場合 郵便物送付先/電話お問合せ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞 日本経済新聞

1株当たり配当

(単位:円)



〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷四丁目6番35号
TEL:048-853-3381 FAX:048-853-9041

IRサイトのご案内

KIMOTO IR

検索

